



- ①8月頃に定植したカリフラワーは、12月～2月にかけて収穫。1年を通して収穫ができるように、他にも多くの野菜を栽培している。
- ②午前中に収穫した野菜を箱詰めする作業も2人で協力して行う。
- ③今が旬のカリフラワーは、カリウムやビタミンCが多く含まれている、栄養価の高い野菜。よく見かける白以外にも、オレンジや紫の品種も栽培している。
- ④1月末に予定しているジャガイモの定植準備。6月頃に収穫を迎えるという。

住人十彩

2021 February
#10 ~米崎広明さん・里美さん~



このコーナーでは、地域の頑張っている人や団体を紹介します。
今回は米崎広明さん・里美さん(西野津)です。



ゼロからの農業

米崎広明さん(46)・里美さん(40)は、長男の虎之介くん(7)と3人家族。水稲のほか、キャベツやブロッコリー、カリフラワー、オクラ、ジャガイモなど、合計約700アールの農作物を栽培している。

広明さんは熊本市、里美さんは福岡市出身だが、広明さんの父の古里が氷川町であることが縁で移住して10年ほどになる。夫婦で農業をしている2人だが、お互いの家族が農家というわけでもなく、20代の頃は広明さんが建物解体業、里美さんは整骨業の仕事をしており、農業とは無縁の人生だった。

農業を始めたきっかけは、広明さんが農業に携わる仕事に転職したこと。仕事を通じて農業に魅力を感じ、平成24年11月に2人で新規就農した。約3年間で学んだことは、今でも活かされているというが、

「最初は耕作地や農業用機械も持っておらず、まさにゼロからのスタートでした。」と話す広明さん。

苦労もたくさんあったというが、地域の人からの温かい協力を受け、年々着実に規模を拡大している。

また、消防団や商工会などに入って様々な人と交流し、農業の技術だけでなく地域のことも学んだ。

農事組合法人「氷川ひまわり野菜王国」を設立

約1年半前に、「より安定した農業経営のために」と、有志の農家5軒で農事組合法人「氷川ひまわり野菜王国」を設立し、広明さんが代表理事となった。

今後は一緒に取り組む仲間を増やして法人としての規模を広げ、将来的には農業を志す人の受け皿になることも目指している。

「天候などの自然環境に振り回されるので大変ですが、立派に育った作物を収穫するときはうれしいですね。」と話す2人。自分の裁量で仕事の調整ができるので、比較的多くの時間を家族と過ごせるのも魅力のこと。休日は家族で温泉に通い、リフレッシュするのが楽しみだという。

募集

このコーナーでは、地域の頑張っている人や団体を募集しています。自薦・他薦は問いません。

詳しくは、お問い合わせください。

申込先：企画財政課 企画係
☎0965-52-5850